



# The Star in the West

## 東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「世界とともにワイズメン」
- アジア会長主題 「100年を越えて変革しよう」
- 東日本区理事主題 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
- あずさ部部長主題 「道を拓く～愛と協力によって」
- 東京西クラブ会長主題 「わからないこと、言いたいことは、何でも声に出しましょう！」

### 2022年3月号

NO 546

信仰による祈りは、病でいる人を救い、そして、主はその人を立ち上がらせて下さる。

新約聖書 ヤコブの手紙 5章15節

### CS活動に思う

神谷幸男

### WHO ウォークそろりそろりと

CS活動こそワイズメンズクラブの活動の本命であると考えている一人である。

世界的規模についていえば、IHQを通しての活動でしょう。各クラブから集めたTOF、RBM資金を活用しての活動等がそれであろう。

国内規模にあってはクラブないし部（以下単にグループ）が主体となって行うことができれば少々大きな働きもまた長期的な働きもできるかもしれないが、リーダーシップを発揮できる人が得難いため、言うは易いが実行がなかなか難しいのが現実であろう。ちなみに、リーダーシップを発揮すべき立場にあったときもあらゆる面で力不足でなし得なかったことは惭愧の至りである。

クラブレベルにあっては人数や活力の関係で、長年行ってきた活動さえも継続するに困難を覚えるようになるのも現実である。

新規に立ち上げることなど全く考えられないのも同様である。故に社会貢献意識旺盛な会員を増強する必要性が今叫ばれている所以でもあろう。

一方、どこの地域でも社会的に弱い立場に置かれている人々に対する生活支援、教育分野や文化活動分野に対する支援、啓発活動を行っているグループが多数ある。しかしこれらのグループと共同であるいは協力関係をもって活動することは好ましいことと思うが、しかし、一般には困難である。

けれども個人レベルではハードルは高くないので、これらのグループに参加して活動しているワイズメンも少なくないと思っている。もしもこれらのメンバーの活動がそのクラブのCS活動に何らかの形でカウントされ、クラブの実績にすることができれば、他のクラブメンバーにとっても



2019年11月以来中止していたWHOウォーキングを3月から再開します。感染状態もまだ油断出来ません。参加者のコンディションも中止以前と同じとは言い切れませんので、そろりそろりと、久しぶりの仲間の顔と満開のサクラ見るだけ。

期日：3月26日（第4土曜日）

目的地：杉並区善福寺川緑地

集合：JR阿佐ヶ谷南口 10時

詳細：[czt05343@nifty.com](mailto:czt05343@nifty.com) 吉田

地域で行われているいろいろな地域活動に対する認識も深められ、参加する意欲も鼓舞されるかもしれない。

### クラブ役員

- 会長 鳥越 成代
- 副会長 吉田 明弘
- 書記 本川 悦子
- 会計 石井 元子
- 担当主事 横山 弥利

2月の記録		ニコニコ	－円
在籍者数 12人 (内功労会員) 1人	メ ネット 1人	クラブファンド	－円
出席者数 11人	コ メ ッ ト ー人	ファンド残高	113,308円
メーキャップ ー人	ビ ジ タ ー 0人	ホテ校ファンド	5,500円
出席率 100%	ゲ ス ト 1人	ホテ校残高	40,310円
内 Zoom 参加 0人	出席者合計 13人	WHO 参加者	ー人

## 3月合同例会のご案内

## 強調テーマ：CS ワイズメネット

ロシア軍のウクライナ侵攻、衰えを見せないコロナ禍と依然気が重くなる昨今ですが、一日も早い平和を祈るばかりです。春の息吹には明るさも感じられます。

今月は恒例の東京世田谷クラブとの合同例会です。会場も開催日もいつもと違いますのでご留意ください。また、ハイブリッド形式で行われます。会食はなしです。

日時：3月18日(金) 18:30~19:30

会場：東京 YMCA 南コミュニティセンター  
3F

03-3420-5361

世田谷区宮坂 3-23-2

担当：C班（神谷、篠原、河原崎、横山）

司会 小川 圭一さん  
開会点鐘 東京世田谷 峰 毅 会長  
ワイズソングと信条 一 同  
ゲストとビジター紹介 峰 毅 会長  
東京西 鳥越 成代会長

今月の聖句朗読

卓話 高齢化社会における社協の働きと  
生涯現役ワイズへの期待

阿藤 京子さん

(YMCAすずらん会スタート期の社協ご担当)

## HAPPY BIRTHDAY

18日 渡邊 実帆さん、21日 吉田 明弘さん

30日 小原 武夫さん、31日 大野 貞次さん

結婚記念日

2日 小原 武夫夫妻 26日 寺門 文雄夫妻

ニコニコ献金

諸報告

閉会点鐘

鳥越 成代会長

## —2月事務会報告—

日時：2月24日(木)

17:00~19:00

会場：ウエルファーム杉並

出席者：篠原、高嶋、鳥越、本川、  
村野、吉田

<報告事項>

①会計が欠席のため会計報告は3月事務会で行う。

②あずさ部予算評議会が2月12日、ZOOMにて開催され、クラブから神谷、篠原、本川、吉田が出席した。

<協議事項>

①例会の確認を行った。

・3月東京世田谷クラブ合同例会

日時：3月18日(金)

18:30~19:30

会場：世田谷 YMCA

詳細：上記例会案内の通り。

・4月例会

日時：4月21日(木) 定刻

卓話：大沢稔さん(タウン誌発行・編集人)

仮題：「100号を迎えて一地元の人と喜びも悲しみも共にして」

・5月例会

日時：5月19日(木) 定刻

卓話：氷室幸夫さん(舞台役者)

仮題：「外郎売と発声法—聴く方だけでなく話す方も工夫を」

・6月例会(クラブ総会)

日時：6月16日(木) 定刻

会場：定例会場

内容：クラブ総会

ホテル学校留学生に奨学金贈呈式、懇談

・7月例会

日時：7月21日(木)

会場：定例会場を予定

卓話：1月に予定し中止となった八王子国際協会の花輪豊子さんに「仮題・多文化共生」についてお願い中。

②2022-2023年度あずさ部第1回

評議会は当クラブが担当するため運営について協議した。期日は7月16日に決定している。リアル方式を本命として場合によってはハイブリッド方式に切り替える。後藤明久次期部長の意向を聴き準備を開始する。(書記：本川悦子)

## 卓話者紹介

阿藤 京子(あとう・きょうこ)さん

東京生まれの東京育ち。英語とアメリカに憧れ、高校3年生の時に1年間アメリカに留学。友人家族と教会に行くなどキリスト教に接する機会も多く大学は青山学院へ。卒業後、出版社に就職するも福祉への思いは強く、社会福祉士資格を取り5年で社会福祉協議会へ転職。

現在はファミリーサポートセンター係長。

## 善光寺御開帳評議会

本年度最後の評議会が、5月14日(土)長野市で「善光寺御開帳評議会」として開かれます。

主な内容は1年間の振り返りですが、久しぶりに懇談会も予定されています。会費5,000円。

信濃路の旅と交遊も楽しみましょう。



## インドネシアのスラムに学ぶ 2月 TOF 例会報告

2月例会は18日。TOF（断食の時）ということで、食事は例年同様質素なおにぎり2個。今年はちょっと色が付きましたが、これが贅沢の最高限度でしょう。

卓話は、東京大学建築科教授の岡部明子さん。東大とインドネシア大学の学生が合同で2011年からジャカルタのチキニ（Cikini）地区のスラムで行っているフィールドワークの報告でした。

例会参加者が少ないのを見て、スライド映写をやめてプリントと座話に切り替えたのはさすが。お話集中出来ました。

### <卓話要旨>

「アジアでは人は川沿いに棲み始めた。そこは生活条件が揃っているから。スラムも同様である。日本は、不衛生なスラムを解消するため行政が住宅を整備し、住民を移住させた成功パターンがある。しかし、それは経済が成長し、雇用が確保され、定期収入が得られたから。ここでは通用しない。ますます住民が増え過密化する。住みやすいからだ。」

「ここでは外部から『町を清潔に使用しよう』といった説得や提案は通らない。学生たちがここに住み生活した。住人に何が欲しいかと聞いたら、子どもの遊び場、勉強の共同スペースという声が多かった。空き地はバイク駐輪場になってしまい、小川の上しか広い空間はない。そこに大きなブラ

写真上：2月例会でインドネシアのスラムでの学生のワークショップについて語る岡部明子さん。写真右：現地の子どもたちは遊び場を欲しかった。空いた空間は川の上しかなく、住民と協力して、竹を組んで大きなブランコを造った。

ンコを造ることにした。竹材をいかだ状に組んで川の上に大きなブランコを造った。川にはトイレの汚物をはじめ生活排水が流れ込んでいた。たまらない悪臭、汚濁の中で学生が働いた、住民も加わり、子どもたちもペンキ塗りを手伝った。完成。『ゴミを川に捨てないで持ってきたら、ブランコに乗れるよ！』。子どもたちはゴミの袋を持って列を作った。」

「この町では、生活上の不都合があっても専門家に頼らない。自分の知識と技能で何とかする。1人で出来なければ隣人が手を貸す。それでも出来なければ近隣が助ける。行政にも法律にも頼らない。彼らにとって日本人がここに住んでいるということがプライドになっている。この生活に感激した学生が、ここで結婚式を挙げた。前日家の前に繋がれていた羊が、翌日のご馳走となった。」

「彼らは日本人の現在の生活に憧れる。しかしそれが世界的に達成できた時、地球は立ち行かなくなっている。持続可能な世界のために現在の生活を見直し、変えていくことが必要なのは、私たち日本人の方ではないか。」

（吉田明弘）

[出席者] <メンバー>石井、大



野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、横山、吉田、<メネット>神谷、<ゲスト>岡部明子（卓話者）

## ワイズメネット

3月の強調月間のテーマは「CS」だけではなく「ワイズメネット」であるがどうもあまりピンと来ない。ワイズメネットとは男性会員のパートナー（配偶者）とされている。よって男性会員のパートナーであっても会員（女性会員）であれば会員であると同時にワイズメネットでもある。しかしこのような意識は多くの場合薄弱ではないかと思われる。

しかし現実にはワイズメネット会なる組織がある。この組織構成員は様々な活動に参画し社会貢献しているから、ワイズメネットとは何かについて少々あいまいなところがあっても細かいことを云々することはないであろう。

なお、ワイズメネットクラブはクラブレベルから国際レベルでも、当初はワイズメンズクラブの補助者的な活動をしていたようであるが、近年にあっては地域のYMCA やコミュニティをサポートする独自のプログラムを持って活動している。（神谷幸男）

## あずさ部第2回SDC評議会

第2回評議会が2月12日(土) 13:00 からホスト東京武蔵野多摩クラブ主催でおこなわれました。当初はハイブリッドで行う予定でしたが、コロナが治まらず ZOOM での開催となりました。東京西クラブからは神谷、篠原、本川、吉田さんの4人が参加しました。

評議会は第1号議案、第2号議案、第3号議案すべて承認され、3号議案として地域奉仕/YMCA サービス事業主査・荻野清さんの報告により松本クラブへ5万円、富士五湖クラブへ7万円の事業助成金支払いが承認されました。

続いてあずさ部長の活動報告、部主査の活動報告、部エクステンション委員長の活動報告がされました。

2部は元 YMCA の職員で、現在は開発教育協会理事をされている上条直美氏の講演がありました。

講演の内容は、知っているようでよくわからない SDGs について身近な事例からお話されました。途中で4~5人のグループに分かれてディスカッションをしました。久しぶりにお会いした方もいて、楽しい議論になりました。参加者は50人でした。

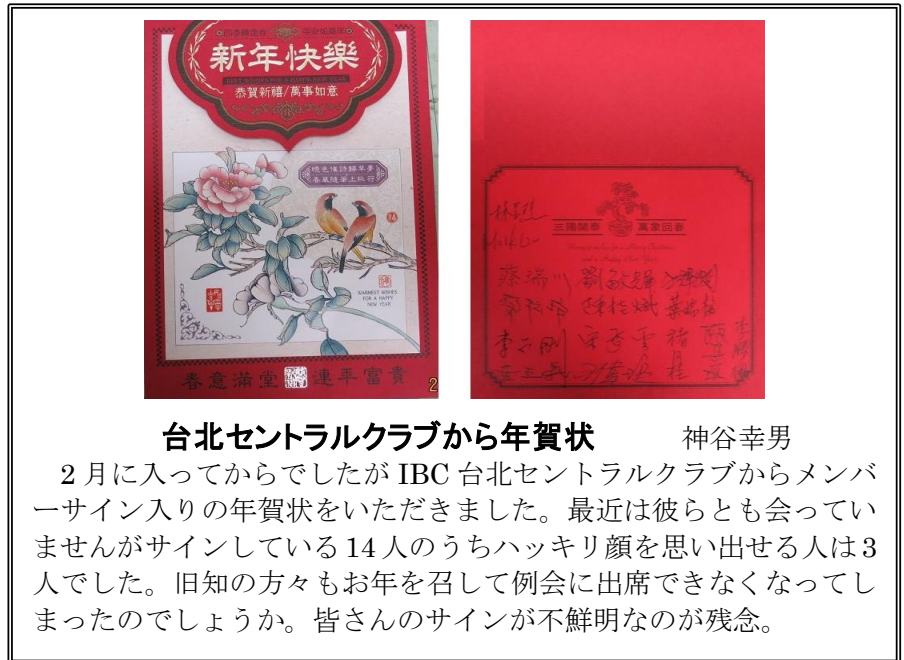
(本川悦子)

### 評議会名「SDC」の語源

ワイズ活動の継続をしっかりと考えていこうとのことで、S(サステナブル)、D(ディストリクト)、C(コンシル)評議会とした。講師に開発教育に昔からかかわっていて、SDGsにも大変詳しい上条直美さんをお願いし、我々のワイズ活動の持続と発展について考える機会としたいと考えた。(東京武蔵野クラブ3月号ブリテンより)

### アニメDVD「いのちをつなぐ」が文科省学校教育教材に

このアニメの内容は、世界の心臓学を拓いた、明治の医聖田原



### 台北セントラルクラブから年賀状 神谷幸男

2月に入ってからでしたがIBC台北セントラルクラブからメンバーサイン入りの年賀状をいただきました。最近では彼らとも会っていませんがサインしている14人のうちハッキリ顔を思い出せる人は3人でした。旧知の方々もお年を召して例会に出席できなくなってしまったのでしょうか。皆さんのサインが不鮮明なのが残念。

淳の伝記で、この伝記を通して「いのち」の大切さ、価値を問う作品です。この内容が評価されて今般文科省選定の学校教育や社会教育の教材に決定されました。

このDVDの製作プロジェクトにあたって、企画・製作者(北九州クラブメンバー宮川詩麻さん)を支援しようとペンタゴン DBCも資金募金を行い、東京西クラブも提供しました。

なお、このプロジェクトの最終目標は医療活動支援のためスーダンに井戸を掘ることとことです。また、このDVDの普及促進にも協力を求められています。

### ウクライナについてのワイズメンズクラブ国際協会の声明

この声明の概要:

国際協会は現在のウクライナ情勢を深く憂慮している。ロシア YMCA 同盟、ウクライナ YMCA 同盟と提携したプロジェクトも進行中である。

武力衝突によるウクライナの苦しみ痛みを変えると、当事者の考えが変わること、エスカレーションの停止、軍事行動の代わりに対話が行われることを祈る。

各クラブに対しても「ヒールザワールド」の「ウクライナアピール」への寄付を通じて、さらなる貢献を行うよう訴えている。

### 東京世田谷クラブ訪問記

本当に久しぶりに対面での他クラブ例会に参加した。

2月18日(金) 18:30~19:30に開かれた東京世田谷クラブの3月例会に経堂の東京 YMCA 南センターに対面で参加した。同クラブの会員の松井直樹さんの卓話「神学校での人生第2の学びについて」を拝聴するためである。

松井さんは現役の出版社の要職にある方であるが、学ぶために神学校(キリスト教の教師養成学校)に入学してすでに2年生とのこと、聞いても全く参考にはならないことを承知で(学ぶために努力することなど嫌いな小生にとっては)聴きに行った。

お話は、①はじめに一人生第2の学びについて ②神学生の日常生活について ③神学校に入学した動機について ④まとめ(まとめの一部:脳は刺激がないと機能低下で衰えます。何でも色々な趣味の学校や講座に是非通うことをお勧めします。)

例会は「対面」に加えてリモートもあり(いわゆるハイブリット開催)出席者は対面9人、リモート7人計16人。リモート出席者の発言もよく聞こえ画像もよく、この面でも良い会でした。因みに開催時間は1時間と短く、食事もなし。(神谷幸男)

## ☆☆☆ インタビュー ☆103☆ 松島 美一さんに聴く

横浜クラブ

\* \* \*



—いきなりですが、松島さんは、ハマッ子ですか

「いいえ。1934年(昭和9年)、東京市小石川区宮下町で生まれ、駕籠町国民学校に入学、4年生で神奈川県葉山に疎開するまでは東京でした」

—どんな子どもでしたか。

「小学校では成績は悪くありませんでしたが、運動体育は苦手。当時の子どもの憧れの軍人さんには無理でした。将来なりたかったのは天文学者。空襲を避けるための厳しい灯火管制のおかげで夜は暗闇、星がよく見えました。6年生の時に敗戦となり学制が変わり、修了とともに国民学校は新制の小学校になりました。6年間国民学校へ通った唯一の学年です。

—中学は。私立ですか。

「横浜市金沢区六浦に疎開していたミッションスクール、関東学院に入学して、中・高6年間通いました。ここで初めてキリスト教に接し、聖書研究などYMCA活動にも参加しました。後に横浜クラブのメンバーとなる岡田吉民君とも出会いました」

—岡田さんですか。1980年当時珍しかった米国製のシステムキッチンを手広く扱っておられました。クラブの山田利三郎さんが、日本区理事に立候補を頼みに行くというのでお供して、食事をご馳走になって断られました。ミナト横浜の雰囲気をもたれていま

した。大学での専門は。

「1953年東京大学に入学し、1年生のクリスマスに鎌倉教会で高田彰牧師から受洗、以来70年教会へ通い続けています。高田牧師は、元東日本区理事の高田一彦さん(現千葉ウエスト)の父上です。疎開先の葉山から東京への帰還が区画整理などの関係で果たせず、母の実家のあった川崎市の土地に家を建て、川崎市市民となり、日本基督教団川崎教会の会員となりました」

—学業の方は。

「医学部薬学科に進み、大学院はクリスチャンとして有名な石館守三教授の研究室を選び、キリスト者医科連盟、キリスト者学会、クリスチャン・アカデミー等の活動に参加する機会がありました。千葉市に科学技術庁放射線医学研究所が設置されたとき、石館教授の勧めで研究員となりました」

「1962年、原子力留学生試験に合格、国費でアメリカ留学ができたことになり、研究論文で憧れていたシカゴにあるイリノイ工科大学のA.E.マーテル教授の研究室に行きました。原子力留学生とは原子力に関する研究を推進するため、政府が募集、選抜したもので、私の研究していた化合物が体内に入った放射性元素を除去する薬品の候補であったため選ばれました。原子力留学生は1年が限度でしたが、マーテル教授が研究費から給与を出してくれ、2年間の留学となりました。この期間は、会議も雑用もなく、研究、遊ぶ、寝る、この3つのほかは何もしない、一生の間で最も充実した良い期間でした。この間アメリカでは、キューバ危機、ケネディ暗殺、公民権運動等の出来事がありました。ひたすら雑音に耳を貸さずの日々でした」

「帰国数年後、九州大学薬学部から新講座、放射性薬品化学の助教授としての招聘があり、その後13年間、研究教育と福岡での暮

らしを楽しみました。博多はとても住みよい町、懐かしい町です」  
—東京の女子薬科大学の教授もされましたね。

「大学院設置に伴う有資格教員の募集に応じ、共立薬科大学の大学院の教授となり、定年までの十数年を勤めました。この大学勤務中に大学院設置と男女共学化を成し遂げました。現在は慶應義塾大学薬学部となっています」

—横浜YMCAの常議員になられたのは。

「数年後、横浜YMCAの吉村恭二総主事と古田和彦主事の訪問を受け、常議員の招聘を受けました。当時常議員には高田彰牧師、岡田吉民君、関東学院での恩師石田昭義先生(後に関東学院院長)がおられました。大学の多忙な役職との両立に不安はありましたが、お受けせざるを得ない状態でした」

—月刊の『横浜YMCAニュース』(以前は『横浜青年』)のコラム『ポトス』を、長く執筆されていますね。

「3人交代ですが、1986年から40年近く執筆を続けています」  
—これは、まさに健筆と言うべきか、素晴らしいですね。横浜Yに行った時は読ませていただいています。ワイズの方の入会は。

「YMCA入会と同時に勧められましたが、大学定年までご猶予をいただき2000年夏に入会の運びとなりました。クラブには、すぐに馴染み楽しいクラブライフでした。会長も務めましたが、今は病気療養中の妻の介護に時間をとられ、クラブ役員などは辞退しています」

—座右の銘などは。

「出来なくて、いつも自分を責めている格言は『Never put off till tomorrow what you can do today』です」

—有難うございました。

(吉田明弘)

## 思い出を辿って③ 「I met him」

村野絢子

2008年4月21日夕食の後、テレビのクイズ番組を家族で見ている時のことである。3人の外国人の男性の顔が出て、「この中で日本に来たことがある人は誰でしょう？」リンドバーグの顔にすかさず「I met him」と伯母の声。「where?」「at Tuchiura」「when?」「at my childhood」「why! however?」と、しばし英会話。

そこで分かったのは、夏休みに母と秋江叔母さん（父の妹で夫は海軍の山口三郎）の家に行ったとき、お客様でいらしたのが、1927年にニューヨーク・パリ間をプロペラ機で初めて無着陸で大西洋を横断した飛行家リンドバーグだった。叔母さんは「叔父さんが『うなぎをご馳走する』とお呼びしたの」とお盆に鰻のお重箱を2

つおせて応接間に運ばれた。私たちには無かったの。

この話は川口米子伯母の葬儀に、三鷹教会の平池牧師が披露された。歴史上の人物に遇っていることに驚かれたようだ。ここに名前の出た山口三郎大叔父は、身体が大きく東中野の家の風呂桶を壊したとか、多くの逸話が残っている。

この話をした伯母自身は、当時池袋にあった成蹊小学校に通い、女子学院、津田塾大学を卒業し長女でまじめで優秀だったため、いところちから「米子様」と呼ばれていた。

戦後中国から引き揚げてきた私たち家族は府中の米軍基地に勤務していた伯母にずいぶん助けて頂いた。私たちの着る洋服は母の手作りで、服の生地や糸をよく送っていただいた。お休みの度にお土産を持って帰って来るサンタクロースのような存在であった。その後母校の女子学院の英語教師として長く勤務し、津田

アカデミーハウスで仕事を終えた。母清子は父の死後、弟たちにも迎えられたが、米子伯母の大久保のマンションはどこに行くのも便利で姉妹の2人暮らしが続いた。姉妹で、母校の同窓会館で日本画、コーラス体操などに加わり楽しい交わりを持った。

2人が80代後半になり、長女の和泉・妹・勤務帰りの私の3人が交代で手伝うようになった。母は最期の1年わが家で過ごし、89才で召された。伯母も最後の3年間余り西永福のわが家で共に暮らすことになるとは神様のお計らいに感謝している。「米子様」はいつの間にか「米ちゃん」に変わっていた。



### YMCA Today

■新2年生の就職戦線スタート！ ホテル学校では本格的な就職活動対策セミナーと学内企業説明会が始まりました。自己PRや志望動機など自己分析の相談が急増中です。昨年はコロナウイルスの影響で採用を見送る企業も出ていましたが、今年は企業側の採用意欲は回復傾向です。スタッフ一同しっかりサポートしていきます。

■全国YMCAで取り組んでいるいじめ反対キャンペーン「YMCA ピンクシャツデー」は、今年は2月23日。その前後の期間に、各部では子どもたちといじめについて考える時間を持つたり、キャンペーンブースを設置したり、ピンクのものを身に付けてアピールする等、様々な取り組みが展開されました。全国YMCAでは発達支援事業部会と日本YMCA研究所の共催で、

オンライン講演会「ネット社会を生きる子どもたち—フリースクールの子もたちとの出会いを通して」を2月7日に開催し、田辺克之氏（神戸フリースクール代表）を講師に迎え、全国YMCAの職員や関係者110人が参加しました。

■米国フロストバレーYMCA夏キャンプのリーダー派遣が3年ぶりに実施されます。2月5日と6日にオンラインで現地とつないで行った説明会には11人の学生が参加。面接や書類審査で選考されたリーダーは、6月16日～8月23日の期間、フロストバレーYMCAキャンプ場で行われる在米日本人の子どもたちを対象としたキャンプのスタッフとして役割を担います。

■愛恵福祉支援財団との共催による第23回愛恵エッセイ募集「豊かな福祉社会を創るために」は、「パンデミック（感染症）

と私たち」をテーマに一般の部127人、専門職の部7人、学生の部139人から応募がありました。今後、審査会で選考された入賞者が表彰を受ける他、入賞作品を集めた作品集が発行される予定です。

■「第31回チャリティーゴルフ大会」 日程：4月14日（木）  
会場：PGM 総成ゴルフクラブ  
（担当主事 横山弥利）

### 編集後記

最近ではコロナ禍に加えてロシア軍のウクライナ侵攻に心が痛む事態に悩まされています。戦火が早急に収まることを世界の多くの人々が祈っています。ワイズメンズクラブも細やかでも貢献したいものです。

原稿をお寄せくださった方々、有難うございました。今月号も発行が遅れまして申し訳なく思っています。 (SK)